

4. 胎児・子供への影響に関する Q&A

QA30 放射線による子供への健康影響について教えてください。

1. 高線量被ばくのリスク

様々な疫学調査の結果、高線量被ばくの場合、子供は大人に比べて放射線による発がんの可能性が高いことが知られています。乳がん、甲状腺がん、白血病は、被ばく時の年齢が低いほど発生率が高くなります。被ばく時の年齢が10歳以下（胎児を含む）の場合、生涯にわたるがんの発生率は成人に比べて2～3倍高いといわれています。放射線による影響は、盛んに分裂を繰り返している細胞ほど高くなります。大人に比べ、胎児や子供は細胞分裂や物質代謝が盛んなので、放射線による影響が高くなると考えられます。

2. 低線量被ばくのリスク

100ミリシーベルト以下の低線量被ばくの場合では、他の要因による発がんの影響によって隠れてしまうほど小さいため、放射線による発がんリスクの増加は明らかになっておらず、年齢層の違いによる発がんリスク差についても明らかになっていません。

出典：復興庁「避難住民説明会等によく出る放射線リスクに関する質問・回答集」より作成

出典の公開日：平成24年12月25日

本資料への収録日：平成25年1月16日

改訂日：平成27年3月31日